

本論文は

# 世界経済評論 2017年9/10月号

(2017年9月発行)

掲載の記事です



## 世界経済評論

# 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

# 6,600円

税込

17%

送料無料  
OFF



定期購読  
期間中

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

# デジタル版バックナンバー 読み放題!!



## 世界経済評論 定期購読



# ☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。  
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp  
雑誌のオンライン書店

## 日・EU 経済連携協定が 意味するものは何か

——新たなメガFTAへの挑戦と課題

ITI 客員研究員 田中 素香



[編著者]

長部重康 (おさべ・しげやす)

法政大学名誉教授

[発行] ミネルヴァ書房, 2016年12月

[判型] A5判・ヨコ組・264頁

[定価] 本体 3500円+税

日EU間の自由貿易協定(EUはFTA,日本は経済連携協定EPAと呼ぶ)とその交渉について,国際貿易投資研究所(ITI)の「欧州経済研究会」チームがとりまとめた総合的な解説書である。

編者は「はじめに」で,EUカナダFTAやEU米国の環大西洋貿易投資連携(TTIP)など先進国主導の戦略的連携協定と比較しながら,EU日EPAについて解説し,第1章「メガFTA

時代の到来とEU」でさらに詳しく説明し,終章ではEU通商情勢を分析する。

第2章以下の章別構成は次の通り。同協定とWTOの関連(須網隆夫),日EU協定のモデルの面もあるEU韓国FTAの分析(田中信世),日EU通商関係史と今次協定(田中友義),市民社会(市民組織)の観点から見た同協定(久保広正),EUハイテク産業との関係(中野幸紀),グローバル企業活動と欧州企業の特徴(瀬藤澄彦),同協定の論点(新井俊三),世界貿易の変容とEU統合(長部)。

編者も,「多面的かつ野心的な内容を盛り込むことができた」と述べている。

いくつかコメントを記しておこう。第1に,重要な交渉項目である農産物についての解説が少ないのは惜しい。第2,EU側の動機は日本のTPP参加により「日本市場でアメリカなどと競争上不利になることを懸念したから」(196頁)であり,「交渉を引っ張ってきたのはイギリス」(viii頁)とすれば,この両要因が消えた今日,EUの協定成立への情熱はどこにあるのだろうか。第3,著書のタイトル「日EU協定の意味するものは何か」への回答は「メガFTA/EPAの流れの一環」と理解してよいのだろうか。

メガFTAの支柱であったTTIPは凍結状態,TPPはトランプ政権によって葬り去られた。日本にとってEU日EPAはEU韓FTAのハンディキャップを埋めるだけでなく,米新政権の保護主義に対抗するという新たな意義を担うことになった。交渉も佳境に入った。

この情勢の中で,情報量豊かで,いずれの章も読み応えのある本書は関係者の必読書といえる。

(たなか そこう)